

Bentley[®]
Advancing Infrastructure

CONNECT Edition



画像提供 : Nearmap

OpenCities™ Map CONNECT Edition

GIS リポジトリにある資産のモデルを作成する地理空間ソフトウェア

OpenCities Map を使うと、GIS リポジトリにある資産のモデルを効率よく作成できます。OpenCities Map はリアリティデータを基に、プロジェクトのコンテキストを拡充します。また、他のシステムとの相互運用も可能で、有用な各種データ標準にも対応しているため、Oracle Spatial、SQL Server、PostGIS などの空間データベース内のフィーチャを直接編集できます。OpenCities Map は、アプリケーションのパフォーマンスを高め、開発時間を短縮できるように、高度な地理空間機能にアクセスできる強力かつ柔軟なアプリケーションプログラムインターフェース (API) を提供しています。さらに、オプションの FME 統合を利用することで、さらに数百種類のファイル形式を扱うことができます。

CONNECT Edition

SELECT[®] CONNECT Edition には、SELECT CONNECT Services が付属しています。これは、Bentley アプリケーションのサブスクリプションをご利用頂いているすべてのお客様にラーニング、モバイル、コラボレーションの各サービスを包括的に提供する、Azure ベースの新しいサービスです。Adaptive Learning Services は、Bentley アプリケーションの使い方を習得するための機能で、状況に応じた個別のラーニング環境を提供する新しいアプリケーション内サービス、CONNECT Advisor を介して利用するものです。Personal Mobility Services を使用すると、Bentley のモバイルアプリケーションに無制限にアクセスできるようになり、どこにいても必要ときに適切なプロジェクト情報を確認できます。ProjectWise[®] Connection Services では、アプリケーションやプロジェクト情報を安全に共有できるほか、問題の管理/解決、伝送ファイル、提出ファイル、情報提供依頼書 (RFI) の作成と送受信が可能です。

インテリジェントな地理空間オブジェクトの作成

OpenCities Map には、高度な 2D および 3D 設計の生産性を向上できる革新技術が組み込まれていて、資産についてエンジニアリング品質の空間データを作成・保守できます。対話型のスナップアプリケーションを使用して、簡単に地理空間オブジェクトを作成できます。OpenCities Map は、寸法設定、注釈、ラスタ表示、編集、印刷、公開などの各種の機能も備えています。

空間解析と空間表現

2D データと 3D データを使用して空間解析と空間表現を行うための機能を取り揃えています。たとえば、オブジェクトの周囲にバッファを設ける機能、トポロジーオーバーレイを実行する機能、テーマ別マップ、ラベルなどを作成する機能があります。

相互運用性の向上

OpenCities Map の機能を利用して、他の GIS 形式との相互運用性を向上できます。Esri SHP ファイル、MapInfo TAB ファイル、Oracle Spatial、ODBC、WMS、Google KML/KMZ、Esri File Geodatabase、3D PDF、iModel、SQL Server Spatial、Bing Maps、PostGIS など、幅広い種類のファイル形式



画像提供 : Nearmap

テキストも含め、2D および 3D オブジェクトの Oracle Spatial のネイティブデータを操作可能

を OpenCities Map インターフェースから直接参照できます。これらの形式にデータをエクスポートし、他のエンジニアリング分野と共有することもできます。また、OpenCities Map は Safe Software の FME とも連携できるため、相互運用性を大幅に向上できます。

線属性と属性の同期

OpenCities Map Enterprise には、フィーチャ、属性、線属性、動作、配置機能を定義できる管理機能があります。また、単純な幾何学図形から、すべての属性を適用したインテリジェントなフィーチャを作成できます。OpenCities Map では、フィーチャの線属性は常に属性との同期が保たれます。

リアリティモデリングの統合

3SM 形式を使うと、どのような規模であっても、現実のデジタルコンテキストを基に 3D リアリティメッシュを統合できます。また、OpenCities Map の分類機能によって、3D リアリティメッシュに意味情報を容易に追加できます。さらに、ProjectWise ContextShare を利用することで、分散しているプロジェクトチームの間での 3D モデルの共有およびストリーミングが可能になり、ワークフローが改善されます。

現場からのアクセス

OpenCities Map は、タブレット向けの OpenCities Map Mobile アプリと OpenCities Map Mobile Publisher をサポートしています。モバイルワーカーはこれらのアプリを使用して OpenCities Map の豊富なプロジェクト情報にアクセスできるので、より多くの情報を基にした意思決定を現場で行えるようになります。

システム要件

オペレーティングシステム (64 ビット)

Windows 10, Windows 8.1,
Windows 8, Windows 7

仮想化環境

Microsoft Windows Server 2012 R2
で稼働する Citrix XenDesktop 7.6

CPU

Intel Pentium ベースプロセッサ
または AMD Athlon ベースプロ
セッサ、2GHz 以上

メモリ

1GB 以上、推奨 2GB (一般的に
メモリが多いほどパフォーマンス
は良くなります)

接続

製品の一部機能の使用や必須
ソフトウェアのインストールには
インターネット接続が必要

ハードディスク空き容量

5GB 以上

株式会社

ベントレー・システムズ

〒171-0022

東京都豊島区南池袋 1-13-23
池袋 YS ビル 8F

TEL 03-5992-7770

FAX 03-5992-7744

www.bentley.com

OpenCities Map の概要

マッピングと GIS

- データを効率よく統合、編集
- 正確な地図とインフラモデルを構築、公開
- Geospatial Administrator によって定義したビジネスルールおよび地形的なルールを適用可能
- GIS に CAD の正確さと使いやすさを提供

MicroStation® の全機能

- GIS フィーチャをスマートかつ高速に描画、編集
- ラスター管理
- AccuSnap、AccuDraw®
- 表示の優先度、透明度
- 座標系の割り当てと即時の再投影
- フル 3D モデリング

マップマネージャ

- 直感的で使いやすい、永続的なマップ定義
- レイヤーのドラッグアンドドロップで表示順序を管理
- マップ表示のあらゆる側面を管理
- テンプレートからテーマ別マップを自動作成
- レイヤーをエクスポートして MicroStation 要素を作成

XML フィーチャモデリング

- XML メタデータ駆動型の GIS
- プロパティベースの線属性と注釈
- シンプルな要素からスマートな GIS フィーチャを作成

Geospatial Administrator

- 1 つのインターフェースから XFM フレームワークを管理
- MicroStation 外で使用可能
- XFM プロジェクトファイルを定義、保守
- フィーチャ、プロパティ、フィーチャの作成に使われる機能を定義

使用可能なデータストア

- Esri ArcGIS への 3 層接続
- 自己完結型 XFM DGN ファイル
- MicroStation での RDBMS/DGN のサポート

データの取得と保守

- 多角形の並列作成
- デジタル地形モデルのサポート
- 動的なドメインリスト

地理座標系

- カスタムのデータム / 楕円体
- カスタムのグリッド / 格子線の生成

Oracle Spatial の編集

- Oracle Spatial に対応
- 2 層または 3 層接続
- 3D オブジェクトのサポート
- Oracle Spatial のネイティブのフィーチャ形式に準拠

SQL Server Spatial の編集

- 2 層直接接続
- 3D オブジェクトのサポート

PostGIS の編集

- 2 層直接接続
- 3D オブジェクトのサポート

測定機能と線分の調整

- ベースラインを基準に円形測定または長方形測定により点を配置
- 円形または長方形の丁張り測定のリストを作成
- 不正確なデータに対して線分調整を実行

リアリタイムメッシュのサポート

- ContextCapture により作成したリアリタイムメッシュの高速表示
- モデルのスナップ、測定、レンダリング、操作により設計の品質向上に貢献
- MicroStation のメッシュ要素にモデルをドロップして編集

表現と解析

- 空間解析
- テーマ別の表示
- バッファの作成
- 動的なラベル付け
- 直接データアクセス (DDA)
- フィーチャインスタンスの自動ジオロケーション*
- 日照と日影の解析

マップの生成と印刷

- 関連情報付きの対話型の所在地索引
- ユーザー定義のテンプレートと凡例を使用したプロットを編集時のイメージどおりに生成
- インテリジェント PDF、PostScript 形式での発行
- インポートされたデータやレガシーデータの整合性の問題を解決
- 動的フィーチャ評価により、インポートされたデータやレガシーデータの XFM スキーマに容易に対応

相互運用性

- 地理空間形式の直接参照
- Bing Maps のサポート
- MapInfo (TAB、MID/MIF)、SHP ファイル、Oracle Spatial、CSV、GML、Esri File Geodatabase、SQL Server Spatial、PostGIS、ODBC ソース
- インポート / エクスポート機能

- Safe Software の FME との統合
- RDBMS プロパティが適用された iModel の発行
- 空間データのストリーミング
- Web Feature Service クライアント - 読み取り (照会) アクセス

GIS 開発プラットフォーム

- Open API、C/C++、C#、NET など、モダンなプログラミング言語を使用

現場からのアクセスのサポート

- OpenCities Map、OpenCities Map Mobile、OpenCities Map Mobile Publisher をサポート
- Android タブレット、iOS タブレット、Windows に対応
- サイズの大きい地理空間データベースへの高速アクセス
- 標準的なタブレットベースのジェスチャによる簡単な操作
- シンプルな照会機能
- GPS との統合
- Google Maps との統合
- Apple Maps との統合
- オフラインでの読み取り専用操作により、ネットワーク未接続時のアクセスを実現

* 直接データアクセス (DDA) グラフィックソース接続のみ (Oracle Spatial、SQL Server、WFS など)。